

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

東アジア馬文化の研究

A Study of Horse Culture in East Asia

2. 研究代表者氏名

諫早 直人

ISAHAYA Naoto

3. 研究期間

2020年4月-2021年3月(1年度目年度目)

4. 研究目的

東アジアの諸地域は、中国でさえも家畜馬や馬車の利用において先進地域ではなく、西方からの直・間接的な影響を受けて二次的に始まったことが明らかとなつて久しい。またおおむね前1千年紀後半から後1千年紀前半にかけて、馬車から騎馬へと戦争における利用形態が大きく変化するとともに、家畜馬や騎馬の風習がそれまで認められなかった地域に急速に拡散していく。日本列島における馬の出現は、この変化の最終局面として捉えられる。このように個別の地域・時代に対する研究成果を紡ぎ合わせることで、ある程度の概観は可能ではあるが、東アジアにおける家畜馬や馬車・騎馬利用の出現や普及、その後の展開のプロセスについて、資料の実態に即しつつも一貫した視野のもとに論じた体系的な研究はまだほとんどみられない。本研究は、こうした問題点に鑑み、中国・朝鮮半島・日本列島の馬車・騎馬文化と馬匹生産について、ユーラシア草原地帯と比較しつつ、関連する考古資料と文献史料の検討をもとに明らかにしようとするものである。

It has been shown that eastern Eurasia was not especially advanced in the use of domestic horses and chariots, and that even China was a secondary region compared to the direct and indirect influences derived from the West. From the latter half of the 1st millennium B.C. to the first half of the 1st millennium A.D., the way horses were used in war changed drastically as horse-riding replaced chariots and the customs associated with domestic horses and horseback riding rapidly spread to new areas. The appearance of horses on the Japanese Islands can be seen as the final phase of this change. In this way, it is possible to present a rough overview of horse culture in East Asia by collating

research results for different regions and time periods. However, there are relatively few comprehensive studies focusing on the emergence, popularization and subsequent development of domestic horses, chariots and horse-riding in Eastern Eurasia, based on actual archaeological data. In view of these problems, this study compared horse culture and horse production in China, the Korean Peninsula and the Japanese Islands with that in the Eurasian Steppes, using archaeological materials and historical documents.

5. 研究成果の概要

本研究では、1年の研究期間を通じて3回の研究会を実施し、それぞれユーラシア草原地帯、中国魏晉南北朝、日本古代の馬文化について、班員による研究報告と議論をおこなった。これにより、ユーラシアにおける家畜馬や馬車・騎馬利用の出現と展開の過程について近年の認識を共有することができた。また、東方の中国や日本列島における馬車・騎馬文化と馬匹生産の様相については、関係する考古資料と文献史料を集成・整理し、先行研究の到達点を追認するにとどまらず、鞍馬・馬車・牛車などの社会的役割や馬具の変化などいくつかの視点について、過去の研究とは異なる新たな認識を提示することができた。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

なし

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

昨年度の若手A班「東北アジアの騎馬文化と馬匹生産の研究」および今年度の若手A班「東アジア馬文化の研究」において蓄積した知識と経験をふまえ、その研究領域をさらに拡大・発展させるかたちで、2021年度から共同研究A班「東方ユーラシア馬文化の研究」を新たに発足し、3年計画で研究を進めていく予定である。そのなかで、今年度までに実施してきた若手A班の研究成果については、まず2021年度に一般向けの公開シンポジウムとして成果を公表し、その後、さらに一般向けの書籍などのかたちで公刊していく計画である。